

## ヘッダレスパケット送信モード（通信モード 5）

### 1. システム構成

宛先を予め設定することで、パケット送信モード（通信モード 3）で必要だったコマンドを不要にしたモードです。通信結果のレスポンスを返さないで、送信側で通信成功/失敗は判断できません。送信側では、設定したターミネータコードを検出すると、無線送信を開始します。基本的には 1:1 通信ですが、コマンドにより宛先を変更することができます。



### 2. スイッチ設定

ディップスイッチは、SW No. 8 のみ ON、ロータリースイッチは、「0」にします。

### 3. レジスタ設定

パソコンと無線機を RS232C ストレートケーブルで接続して、Futaba Term などのターミナルソフトを使い、REG コマンドでレジスタを設定します。

#### 【モデム 1】

REG00:01H (アドレス 1)  
 REG01:F0H  
 REG02:02H (宛先アドレス 2)  
 REG03:FFH (ヘッダレスモード)  
 REG04:00H  
 REG05:00H  
 REG06:A3H (周波数グループ: 3 波モード、グループ番号 3)  
 REG07:05H  
 REG08:11H  
 REG09:13H  
 REG10:40H  
 REG11:09H (再送回数: 9 回)  
 REG12:B4H  
 REG13:1EH  
 REG14:00H  
 REG15:00H  
 REG16:32H  
 REG17:32H  
 REG18:8DH (パケット送信モード、宛先アドレスチェックを行う、ターミネータ [C\_R] [L\_F])  
 REG19:40H (ダイバシティ受信を行う)  
 REG20:05H  
 REG21:09H  
 REG22:00H  
 REG23:00H

#### 【モデム 2】

REG00:02H (アドレス 2)  
 REG01:F0H  
 REG02:01H (宛先アドレス 1)  
 REG03:FFH (親機同様)  
 REG04:00H  
 REG05:00H  
 REG06:A3H (親機同様)  
 REG07:05H  
 REG08:11H  
 REG09:13H  
 REG10:40H  
 REG11:09H (親機同様)  
 REG12:B4H  
 REG13:1EH  
 REG14:00H  
 REG15:00H  
 REG16:32H  
 REG17:32H  
 REG18:8DH (親機同様)  
 REG19:40H (親機同様)  
 REG20:05H  
 REG21:09H  
 REG22:00H  
 REG23:00H

## 《注意事項》

- レジスタを設定する前に、無線機を初期化することをお勧めします。
- 上記レジスタ以外に、全無線機の周波数バンドを合わせる必要があります。周波数バンドは *@FBD* コマンドで設定します。(プログラムバージョン 8.3 以降)
- レジスタ設定を反映させるには、*@RST* コマンド、又は電源再投入を行ってください。
- シリアルボーレートを変更した場合、PC ターミナルソフトのボーレート、パリティ、スタート/ストップビットを設定した値に合わせてください。
- 複数の周波数を使用するグループモード(ここでは 3 波)を使用する場合、再送回数は少なくとも使用する周波数の 2 乗倍以上の回数にしてください。
- ターミネータコードは、REG18bit2、bit3 と、REG16、REG17 で設定します。

## 4. 通信手順

## (1) モデム 1 から、モデム 2 への通信

[モデム 1] > HELLO<sup>[C<sub>R</sub>]</sup> <sup>[L<sub>F</sub>]</sup>[モデム 2] < HELLO<sup>[C<sub>R</sub>]</sup> <sup>[L<sub>F</sub>]</sup>

## (2) モデム 1 から、アドレス 3 のモデムへの通信

[親機] > @DAS003<sup>[C<sub>R</sub>]</sup> <sup>[L<sub>F</sub>]</sup>< P0<sup>[C<sub>R</sub>]</sup> <sup>[L<sub>F</sub>]</sup>> HELLO<sup>[C<sub>R</sub>]</sup> <sup>[L<sub>F</sub>]</sup>[アドレス 3 子機] < HELLO<sup>[C<sub>R</sub>]</sup> <sup>[L<sub>F</sub>]</sup>

## 《注意事項》

- LED は非通信時に全て赤点灯で、送信時に SD が緑点灯、受信時に RD が緑点灯して、通信が完了すると赤点灯に戻ります。
- 通信レスポンスが無い場合、通信の成功/失敗は送信側で判断できません。お客様のアプリケーションにて、対応をお願いします。
- 宛先は REG02 で設定したアドレスの局になりますが、@DAS コマンドで切り替えることも可能です。
- ユニキャスト送信時は、宛先局からの ACK が返れば、その時点で再送は終了します。
- REG02 を FFH に設定すると、ブロードキャスト送信になります。このときの送信は、設定した再送回数分送信します。
- 無線送信中に次の送信データをシリアルから入力すると、データは破棄されます。無線送信中は、制御線 CTS が OFF になるので、CTS が ON になるのを待ってから、入力してください。通信モード 4 では、フロー制御あり/なしの設定に関わらず、制御線 CTS が前述の動きをします。もし制御線 CTS を監視できない場合は、レスポンスが返る時間(送信が完了する時間)を計算して、その後に次の送信データを入力してください。
- コマンドヘッダをデータとして送信したい場合は、コマンド認識インターバル (REG15) を設定する必要があります。詳細については、取扱説明書をご参照ください。